

1 美術科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

「中学校等の新学習指導要領の全面実施に当たって」(文部科学大臣からのメッセージ)について(通知・H24.4.6)

1. 新しい学習指導要領の趣旨を改めて確認し、その実現に努めること。
2. 指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること。
3. 言語活動を充実する趣旨を確認し、各教科等の目標と関連付けた効果的な指導を行うこと。
4. 道徳教育について、道徳の時間を要として、各教科等の特質に応じあらゆる教育活動を通じた適切な指導を行うこと。

(1) 新しい学習指導要領の趣旨を改めて確認し、その実現に努めること

柔軟な発想力と形・色・材料で表す技能などが関連して働くように内容を改善する。

繰り返し関連し合うことで

発想 ↔ 表現

それぞれの能力が高まる

A表現(1)(3) 自分の感じたこと考えたことの表現→主に自己との関係性が中心

A表現(2)(3) 目的や機能の表現 →主に他者や自己との関係性が中心

器づくりが工芸とは限らない。資質能力を高める活動にするためには、右のように発想・構想の資質が違うことを意識し、子どもたちに何を学ばせるのかを明確におさえていく。

《例》 「器(うつわ)」をつくる

「自分の気持ちを入れる器」(彫刻) ～(1)(3)

「使う人の気持ちになってつくる器」(工芸) ～(2)(3)

(2) 指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること

① 表現形式や技法などの指導

ここで大切にしたいことは、生徒一人一人が自分の表現意図をしっかりと持ち、それを形や色などで実現できるように指導することであり、そのためには全員が画一的な表現になることなく、様々な表現形式や技法、材料に触れさせる中で、生徒が自分に合い自分が行いたい表現形式を選択し創意工夫する態度を培うようにすることである。(学習指導要領解説P77～80)

→「様々な力を育成する・表現の可能性を広げる・生徒の表現力を豊かにする・題材を取り上げる」ためにスケッチ、映像メディア、多用な表現方法などの活用や、地域の身近なものや伝統的なものを取り上げる。

② 創造活動のための生徒側の捉え

やるべきこと

その題材や授業の目標や内容を理解して学び活動できる

やれること

今までの体験や活動を基に表現を工夫できる



この三つがおさえられたとき、創造の能力が高まり

やりたいこと

新しい自分へ

やりたいこと表現したいことや主題を見つけることができる。自分に合う自分が行いたい表現形式を選択し創意工夫できる

創造活動のための教師側の捉え

やるべきこと

学習指導要領に示された目標・内容に照らし合わせて育成する資質や能力を明確に把握する

→ 一方的な指導・特定の表現形式・画一的な教え込みに注意

やりたいこと

生徒が学習課題の中で、自分の表したいものや自分の見方や感じ方を大切にして、新しい意味や価値をつくり出せるようにする

→ やらせたいイメージが強いと学びが弱くなることを意識

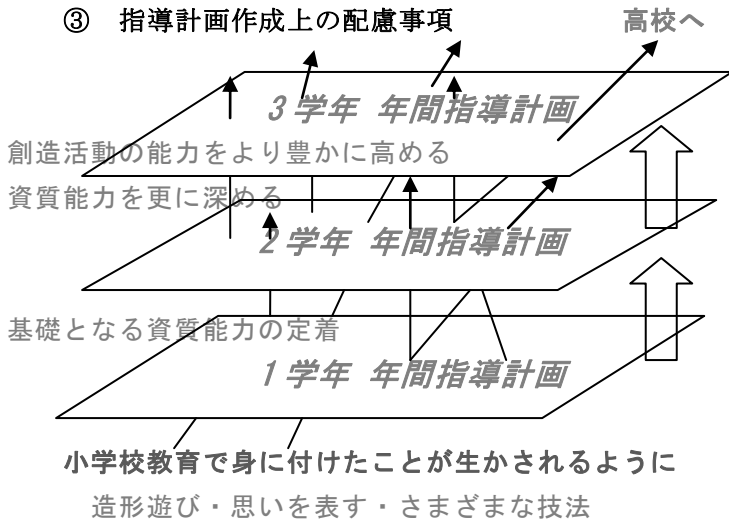
やれること

生徒の創造活動が実現できるように、指導の工夫や学習環境・学習評価を考える (美術室の整頓も含む)

→ 表したいものや主題、材料も含めて自己決定させる

中学校 美術科

③ 指導計画作成上の配慮事項



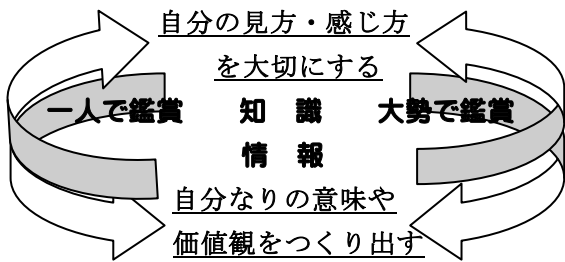
豊かに積み上げ 発展し向上していく  
 目標の実現を目指すカリキュラムを  
 学年間を見通し、学年間や題材の関連を図るとともに、各段階で必要な経験なども配慮しつつ、各学年にふさわしい（2, 3学年も各々）学習内容を選択して指導計画を作成する。

- 各学校で年間指導計画の再確認
- ・「A表現」描く活動・つくる活動のおさえ
  - ・「A表現」「B鑑賞」の相互の関連と設定
  - ・各題材間の発展的な相互の関連と設定
  - ・見通しを立てる・振り返る活動の設定

(3) 言語活動を充実する趣旨を確認し、各教科等の目標と関連付けた効果的な指導を行うこと

言語活動そのものを目的としない。どんな目標を達成するために、どのタイミングで、どんな発問や設定で行うのかを、明確に吟味し活動させる。

鑑賞は以下の二つを行き来し高まっていく

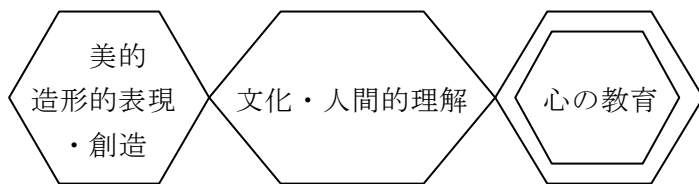


《鑑賞の例》

- ① 同じ作品を全員で自由に見る  
 自分の生き方や経験をもとに感想を持つ  
 →多様な見方があること気付く **発見**
- ② 絵から読み取ることが難しい情報をもらい  
 もう一度見つめ直す →様々な興味で **気付き**
- ③ 新たな視点をもらい  
 見方・感じ方を広げる **新たな見方・感じ方**

(4) 道徳教育について、道徳の時間を要として、各教科等の特質に応じあらゆる教育活動を通じた適切な指導を行うこと

※美術の指導で育てる道徳的実践力の把握



左の三つの視点で捉え  
 これらを踏まえ  
 教科目標の実現を目指す

教科の目標 (学習指導要領解説 P6)

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

夢や目標と自己実現 (学習指導要領解説 P80)

主題を生み出すことから、表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標を持ち、自分のよさを発見し喜びを持って自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること。

全ての子どもたちは豊かな存在であり学ぶ存在である。そんな子どもたちが自分や周囲のことを深く考え、自分の持つ世界を創造し、自分の世界観を持てるのが美術でもある。その役割を自覚して様々な学びを繋ぎ、子どもたちの新しい自分との出会いをつくる創造的な実践を目指したい。